

# 地下鉄延伸 「万博のため」は口実 山中市議 I-R 誘致やめよ

## 大阪市議会決算委

7日の大阪市議会決算特別委員会（日本共産党の山中智子議員は、吉村洋文大阪市長と松井一郎知事が、大阪湾の人工島・夢洲（大阪市此花区）での2025年の国際博覧会（万博）開催を利用して、刑法で禁じられた賭博であるカジノを核とした統合型リゾートの誘致



山中智子市議

を進めている問題で質問しました。

山中氏は、地下鉄中央線を咲洲（コスモスクエア駅）から夢洲（仮称・夢洲駅）まで延伸する鉄道建設（640億円）などが万博の「連事業費」となっているが、万博基本構想では、万博の1年前に予定するI-Rの開業に合わせて鉄道を開通する計画だと指摘。「万博のため」と言うのは口実で、I-Rのためだ。吉村市長は『鉄道アクセスも含め事業者が負担してもらおう』と言ってきたが、それなら万博の「連事業費

から除外すべき」と迫りました。

市側は「万博のためだけでなく、今後の夢洲のまちづくりが必要。万博を契機に進めるので連事業費に計上している」などと答弁。山中氏は、シンガポールのI-Rでは事業者は鉄道建設を負担していないとし、「万博を利用して、I-Rのための鉄道を『万博の費用』として建設するものだ」と批判しました。また山中氏は、世界各地のI-Rの収入が伸び悩んでいる下で、富裕層が日本に来るとは考えられ

ず、結局、大阪・京都・神戸などの一般市民の財布が狙われるのではないかと警告。「ギャンブル依存症が深刻な日本で、根絶する手立て取らないまま、『I-Rが来ればいい』と叫ぶのは無責任」と強調しました。

吉村市長は「日本は依存症が多いのに、対策がない」と認めつつ、「I-Rを持ち込む過程で、コストロールする。シンガポールのI-Rのルールを学んで対策を取れば、依存症は減っていく」と答弁。山中氏は「カジノは

誰かの不幸の上に立って誰かがもうけるもので、大阪経済にプラスにならない。I-Rのための鉄道建設は無駄な大型開発の二の舞になるのは明らか」と述べ、I-R誘致をやめるよう求めました。

(2016年11月20日付大阪民主新報)